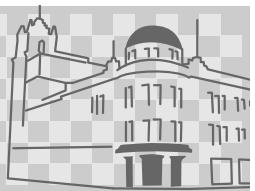


特集

はこまち対談

Part
29

「最先端や非日常が函館の魅力です」

今回は、新しくなった函館山ロープウェイのデザインにも携わった公立はこだて未来大学の木村先生にお聞きしました。

木村 健一さん
Kenichi Kimura

◆プロフィール

公立はこだて未来大学院(博士課程前期・後期)教授

1957年宮城県涌谷町に生まれる。1982年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。
びあ編集部、宮城工業高等専門学校情報デザイン学科助教授を経て2000年公立はこだて未来大学の新設に伴い助教授として着任。

主な公職
函館市美しいまちづくり検討会会長、函館市生活交通協議会会長、五稜郭築造150年祭アートディレクター、函館市中心市街地活性化協議会委員など

【聞き手】地域交流まちづくりセンター センター長
丸藤 競(まるふじきそお)



木 村 丸 藤
.. ..
.. 窓の広さを10%広げたのです
が、側面を扇型にすることであ
感覚的には30%くらい広がっ
ている感じになります。さらに、景観を見るため
のゴンドラが景観を壊してしま



ロープウェイ山麓駅

丸 藤 新しくなった函館山ロープウェイについて教えてください。
木 村 繁忙期は山麓駅や山頂駅が混乱するので、サイン計画を共同研究しようと始まりました。駅舎は、文化勲章を受けた著名な建築家、岡田新一さんの代表作の一つなんですね。

海からの高さとか、どこからでも駒ヶ岳が見えるとか。これだけ眺望を重視している建物なので、ゴンドラ自体も景観を重視したものにしました。

木 村 ああいうしてEDOの使い方は世界的にも初めてです。あそこには脱出口があるんです。見上げることができるロープウェイというのは国内でも希で、お腹の部分を楽しいものにしたいと遊び心でつけました。ちょっと笑ってこんな顔に見えますよね(笑)。



5代目新ゴンドラ

丸藤：自慢してもいい?
木村：函館山ロープウェイは眺望を象徴しているので、他の市街地にあるロープウェイとは位置づけが全然違います。技術的にもかなり挑戦的ですし、全国の同業者からも注目を集めています。デザインでも機能でも、国内最高峰だと思いますね。

丸藤：函館山からの眺めは好きですか?

木村：夜より昼がいいですね。あの景観の良さは別格です。夜景は凄くいいのはビジュアルが出てますが、昼は既知感がない。こんな街に僕らは住んでいるんだと思えます。

丸藤：デザインの専門家がまちづくり等に関わる効果とは?

木村：何かを変えたりつくる場合、物凄く多くの人が影響を受けます。デザインに関わる人が関与していくと、そういう人達にきちんと情報を伝えられるようになつたり、不足している部分を明快にできたりします。

丸藤：公共交通についても考えていますね。

木村：今現在は、自家用車が一番便利な交通機関ということになりますね。

木村：函館山ロープウェイは眺望を象徴しているので、他の市街地にあるロープウェイとは位置づけが全然違います。技術的にもかなり挑戦的ですし、全国の同業者からも注目を集めています。デザインでも機能でも、国内最高峰だと思いますね。

木村：観光についてはどうですか?

丸藤：観光につづけば、もう一つあります。バスツーリズムや修学旅行、

ています。それは、一人ひとりがもつと自由に動けるようにという皆の欲求がそうさせているわけです(笑)。

木村：実は函館の公共交通は地方としては大分便利な方だ

丸藤：不便だと感じてしまつ仕組になつてしまふ。

木村：現在計画策定中の、循環や路面電車などの基幹線とそれにぶらさがるデマンドバスとループ型路線などをつくる

るという函館の計画自体は、国内でもトップなんですね。あとは、どう実装するかです。

丸藤：乗換の文化をつくる。

木村：そのサポートが大切ですね。路面電車が6分間隔で走っているので、それが乗換のポイントです。それと、五稜郭、湯の川、亀田支所という拠点ではバス停がバラバラにあるので、時間をかけて一か所にまとめる努力をする。さらに、スマートフォン等を使いバスの来る時刻などの情報提供を迅速かつ使いやすいように提供することができれば大幅に利便性があります。

木村：あのスピード。電停に止まつた時にくる静寂(笑)。路面電車は、函館に住んでいる人たちの精神形成に大きな影響があると思います。バリアフリーで

海外も含めて団体へのパッケージングされた世界では完成度が高いですね。課題は、ま

ち歩き観光です。函館は縄文までの深さがあります。歴史や文化が最大の魅力なので、探索的な旅をする人たちを見つけて誘致していく。経済的に直ぐに効き目は出でこないですが、それを大切に育て丁寧に投資していくことが必要です。

丸藤：函館の街につづいては、

木村：やはり、西部地区ですね。路面電車に乗つていると特に感じるので、函館駅を越えたあたりから明るかに変わります。建物自体が低くなることと、明治期の物の質感がまだ残っているのが凄く効き目があります。

丸藤：路面電車から見る街並みは、全然違いますね。

木村：あのスピード。電停に止まつた時にくる静寂(笑)。路面電車は、函館に住んでいる人たちの精神形成に大きな影響があると思います。バリアフリーで静かな電車より、乗り心地が少し悪くてバリアフリー度が

象徴的に表してあるような気がしますね。

丸藤：リノベーションの街?

木村：古いものを現代に対応できるように作り替えながらやっていくという価値観では、函館が国内を牽引している思いが

木村：明治以来、最先端を走りつづけていると感じますよ。市民に実感がなくとも、観光客には実感があります。

丸藤：市民はどうまちを見ていけば良いでしょうか?

木村：函館の非日常性だと先端性みたじなことが観光客を呼び込んでいるので、日々自分も観光客になってみる。具体的に言うと、外からお客様が来た時に案内をするところのがシノブルだけ一番、体験効果が高いと思います。まちの魅力ってなんだかうと一所懸命考えます。だって、わざわざ具合悪いところに連れて行かないでよ(笑)。